

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ギフト矢作		
○保護者評価実施期間	令和8年 6月 1日 ～ 令和8年 6月 19日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	令和8年 6月 1日 ～ 令和8年 6月 12日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 6月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	HUGの導入で保護者との情報共有、連絡ツールが活用できている。	文章だけでなく、画像でも様子を伝えることができている。	個別支援を定期的に見直す。
2	姉妹店があることで、相談の幅が広がる。	合同でミーティングを行い、困りごとや分からないこと等、相談し助言の場が定期的にある。 また、様々な事案を共有することで療育に取り入れることができている。	研修等で学んだことを共有し、誰が対応をしても同じ方向へ進めるようにしていく。
3	AIによる分析、評価を行っている。	分析結果をいつでも確認できるよう、見やすい場所での設置。 個別支援時に活用。	教材の有効活用。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後等デイサービス卒業後（高校）のフォロー体制が整っていない。	一般、就労A型、就労B型等、就労に関しての知識が少ない。	グループ内で就労施設があると良いがそれだけでは足りないため、他事業所を見学して知識を増やしたり連携をとっていききたい。
2	他事業所との交流の場や地域交流が不足している。	年1回程度、グループ内の他事業所との交流はしているが、他事業所（高齢者含）など地域の施設との関りもあると良い。	時間のある長期休みなどに、地域のデイサービスと交流ができるよう、積極的に取り組む。
3	成長していくにあたり男女とも「性」についての問題やトラブルが発生しかねない。先んじての療育が必要だと思われる。	年齢に関係なく同じ空間で活動をしているため、分け隔てなく関わるができる一方で、近い距離での活動が余儀なくされる。	お手洗いは男女別で準備ができている。 活動内容によっては座る場所を分けたり部屋を分けたりして活動をしていく。